

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469720022
法人名	株式会社 南の太陽
事業所名	グループホーム南の太陽
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町新川西1356番地 (電話) 0994-45-7373
自己評価作成日	令和5年10月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様のADLが低下し、平均介護度も4.0となり車椅子使用もほぼ全員となっている現在ですが、個々に合ったケアや対応の仕方を皆で考える場を設け実践しております。

・医療連携では、当法人の訪問看護師の週1回、適宜の訪問により体調管理の徹底や情報共有を円滑に行っております。また、3か月に1度の法人看護師によるナース会議を開催し当施設の現状や医療ニーズの情報共有交換を行い、緊急時の際、当施設の看護師不在の際など他施設の看護師が対応できるようにしております。

・食事の面では、介助が必要な利用者様も増えていることから、栄養士や厨房職員と話をしながら個々に合った食事形態で提供している。また、施設内研修等で食事介助や窒息時の対応法などを学んでもしにも備えております。

・コロナウイルスも減少したことにより、法人内のみでのイベント行事にも参加し他者との交流の場を設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、東串良町の中心地から4キロメートル程離れた新川西地区に「住宅型有料老人ホーム」や在宅福祉サービス事業所に併設して平成26年に開設している。これらの事業所は日頃から情報の共有に努め、イベントの実施や災害時の協力体制を構築しており、給食の副菜は住宅型有料老人ホームで一括調理して届けられている。柏原海岸に近くホームのそばには肝属川が流れ、広い田園の中に小学校や個人商店、一般住宅等が点在しており、四季を感じながら平穏に暮らせる環境である。

管理者および職員は、法人の理念及びホームの理念を玄関やリビングに掲示すると共にパンフレットにも掲載して周知を図っている。毎年度ケアの目標をキャッチフレーズとして設定しており本年度は「ありがとうの一言であなただけの笑顔で輝ける生活」を掲げ、利用者の尊厳や人格、思いを大切にしたい利用者主体のケアに取り組んでいる。

家族や地域との交流を大切にしており、コロナ禍のなかでも感染予防に配慮しながら家族との面会や散歩時には隣接のディサービス事業所の利用者との挨拶や会話、通院、訪問美容等に取り組んでいる。また、地域住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談、施設見学等には丁寧に対応し適切な助言に努めている。今後、感染状況に配慮しながら地域の人や場との交流の機会を増やしたい意向である。

利用者の思いを日頃のケアの中で汲み取り、残存能力や自己決定を尊重した利用者主体の支援に家族の意向も確認しながら取り組んで、その人らしい暮らしになるように努めている。利用者や家族からの意見や要望等は朝礼や職員会議で協議して改善に取り組んでおり、本評価に伴うアンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	キャッチフレーズを毎年度職員全員で考え利用者様に対して職員がどのように接していくべきかを理念として掲げている。	開所時からの理念をリビングに掲示すると共にパンフレットにも記載して周知を図り、日常的にケアの振り返り等を行って意義を共有している。ケアの目標を毎年度キャッチフレーズとして設定し、ケアの15条も職員トイレに掲示して理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	制限付き面会を再開しているも地域の方の訪問等はほとんどないが、隣接するデイサービス利用者様(同地域)との交流は行事などである。	感染予防に努めながら家族との面会（玄関で15分程度）や散歩時には隣接の事業所の利用者との会話、訪問美容による整髪、通院、同法人の保育園児の来訪による太鼓演奏、パン屋の移動販売等を受け入れて交流している。コロナ禍により地域のイベントの殆どが中止になっている。感染状況が収束後はホームのイベントの再開や社会資源を活用した地域との交流の機会を増やしたい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人行事にて地域住民の方々をお招きした際に、認知症についてや、施設について話す機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前は2か月毎の定期開催で、行事・状況報告等や毎月発行の新聞をお渡しして支援状況を報告していたが、現在はコロナ禍蔓延により、町の担当者にも報告し了承を得て、開催はしていない。	運営推進会議については運営規定や重要事項に約定されている。コロナ禍以前は定期的に会議を開催していたが、ここ2年間は書面会議を含む開催は無く、この状況は町担当者にも報告し了解済とのこと。本年度は家族、民生委員、町担当者等の出席で近日中に会議を再開し、以後、定期的に開催して改善に繋げる予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時や加算取得時などに町役場へ出向いたりし、情報や助言等をもらっている。包括支援センターとは、申し込みの相談や認知症カフェの取り組みについて連絡を密にしている。	町の担当者とは窓口に出向いたり電話、メール等で介護保険の更新やコロナ禍対応、生活保護受給中の利用者の処遇に関する相談や協議を行う等、日頃から協力関係を築いている。包括支援センターとの連携や町からの情報の把握に努めホームの運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体拘束委員会を開催している。また、日頃の業務中や職員会議等拘束の無いケアについて協議し、スピーチロックについても注意しながら改善に努めている。	身体拘束や虐待をしないケアについては身体拘束適正化の指針を整備し、計画的な研修（年2回）の実施や日頃のケアの中で振り返りや意見交換を行って実践に努めている。委員会も年4回開催し、具体的な事例もあげながら認識を共有しており、スピーチロック等不適切な言動が見られた時は助言し合うなど日常的に改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員会議や法人合同職員会議で必ず話をしたり、施設内研修を行ったりしながら虐待や、疑いを起こさせないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を活用したほうが良い方もいるため、学ぶ機会（研修や外部研修）をつ活用し学べるようにする。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談、入居時は施設へ来ていただき書面を見ながら説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やSNS、面会時に生活状況などをお伝えし、意見や要望があった際は聞くようにしている。要望等は職員全員へ申し送り等使い周知している。	利用者や家族とは日頃からコミュニケーションに努めており、ケアの中での会話や表情、仕草等で利用者の思いを汲み取り、家族の意見や要望等は面会や電話、メール、手紙、毎月発行の「ひまわり新聞」で利用者の状況を伝えながら把握している。出された意見等は全員で検討し、内容によっては法人本部とも協議してサービスの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課時の面談や、必要に応じ個人面談を実施し職員からの要望の聞き取りを行っています。	管理者及び職員は日頃から気軽に意見を言い合える関係性に努めており、業務の中や朝礼、職員会議、個別面談等で意見や要望、悩み等を出し合って改善を図っている。業務に対する助言指導や研修に努め、休憩時間を確保し勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。法人による給与体系や資格取得に要する経費の助成等が整備されて職員の就労意欲向上に繋がっており、定着率も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の勤務の要望や相談になるべく応えられるよう対応し、個人の努力や実績も踏まえながら評価し、昇給昇格等も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月行っている。外部研修ではオンラインでの受講を主に行い、職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者との交流を主に、介護に関しての勉強会や相互の意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始決定した際は、慣れない環境での生活による不安や戸惑いを理解し、本人の話を傾聴しながら聞き取りを行っています。また、各関係者から情報収集や連絡を密に行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望などの聞き取りを十分に行いながら、心身の不安を軽減し安心してもらえるようにしている。先々も意見や要望を施設側に言いやすい関係性になるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や面談の際に本人や家族の意向や必要としていることを聞き取り実践できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遠慮なく言ってもらえるように、ごめんねよりありがとうの関係性を築き、家族のような関係性が理想である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行の新聞や電話、SNS等を使い日々の様子を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接している施設へ馴染みのある方がいる場合は会いに行ったりしています。	利用者毎の馴染みの情報を共有し、家族との面会の実施や敷地内及び周辺の散歩時には地域の人や隣接の事業所の職員及び利用者との会話を楽しみ、訪問美容、通院等を支援している。また、遠方の家族との電話や手紙を取り次ぎ、毎月発行の「ひまわり新聞」で利用者の状況を伝えるなど関係の継続に努めている。携帯電話を所持している利用者はいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご姉妹で入所されていたりご近所同士の利用者様は座席を近くにして関りを持つようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様のご家族様との関りは継続しながら必要に応じて助言等も行っております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの関りから、利用者への聞き取り、取り組みや表情、行動で暮らしの希望の把握に努めています。	利用者8人中6人が介護度4以上の重度者でコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の関わりの中での会話や仕草、独自のサイン等から思いを汲み取り、職員は共有して利用者主体の安全で生きがいのある暮らしとなるよう取り組んでいる。趣味（読書、新聞購読他）や家事（お盆拭きなど）の取り組みも利用者の意向や体調に配慮しながら個別に支援しており、利用者の強い希望により白髪を茶色に染める支援を行ったこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供をもとに利用者と日々接する中で聞き取りなど行いながら個々の把握ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの把握と、残存機能を見極めながら職員間で情報共有を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望を聴取し要望や思いをもとに関係職種と共有し具体化した内容の計画を作成しています。モニタリングに関しては3か月に1度おこなっているが、状態に応じてその都度見直し作成している。	利用者や家族の意向を汲み取り、主治医の指示や3か月毎開催のモニタリング時の職員の意見、日頃の生活状況等を基に、習慣や楽しみ事にも配慮した計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿って計画を変更し利用者や家族の理解も得てケアしており、職員は実施状況を申し送りや生活日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化や職員の気づきなど個々の生活日記やもうしおくりの一とに記入しさらに口頭での申し送りを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の個々のかかりつけ医で継続して往診受診してもらっています。入院期間中などはご家族や相談員と連絡を密にし早期退院が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期・不定期にボランティアの受け入れ訪問していただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を主に定期的往診や受診で対応しています。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、従来の医療機関や協力医療機関を主治医としている。定期的（月2回）な訪問診療や通院が実施され、他科受診は家族と連携して取り組んでいる。歯科受診も必要に応じて訪問診療で対応し、協力医療機関とは密な連携で疾病の予防や早期治療を受けており医療連携の体制も構築している。健康状態は家族にも密に報告して家族の信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による体調管理と法人内の看護師の利用者状態の情報共有を行い、緊急時や状態変化時に早期に対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院必要時は医療機関への立ち合いや連絡を密に行い、施設での生活歴をお伝えしています。退院前には家族や相談員へ状態の聞き取りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族へ看取りの意向調査を書面にて行っています。また、状態が重度化した場合や年に1度は看取りの意向の再調査を行い出来る限りの本人や家族の希望に沿えるようにしています。	重度化や看取りの対応は指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して同意を得ており、看取り事前確認書も貰っている。重度化した時点や年1回看取りや急変時の意向を再確認している。主治医や看護師と連携してホームで可能な限りのケアをチーム体制で取り組んでおり、令和4年12月にも看取りを実施している。看取り後は振り返りや意見交換を行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル作成や施設内研修の実施、消防署主催の救命講習などに参加しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。1回は敷地内にある事業所との合同の避難訓練を行っている。また、台風接近時期にはこまめに情報を確認し職員の人員体制を整えています。	年2回（1回は消防署立ち合い）夜間想定を含む火災中心の防災訓練をホーム独自と法人全体での訓練を1回ずつ実施し、災害時の対応や防火設備の取扱い等も研修している。日頃から連絡網や避難経路を確認しマスコミの災害情報を話題にする等、防災への認識の共有に努めている。災害発生時の飲料水や食料品は法人本部が全体分を備蓄し、飲料水はホームで備えている。BCPは作成中である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心身の状況に合わせて声掛け等工夫しています。 日頃から、声掛けの仕方や接し方に十分に気を付けて対応している。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報の取扱いについては研修の実施や日常的に振り返りや意見交換を行って認識を共有している。ホームはプライバシーに配慮した構造になっており、排泄や入浴時の支援は人格や羞恥心、習慣に配慮した言葉やトーンに努め、生活全般の支援を残存機能や自己決定を尊重し無理強いしないケアに取り組んでいる。情報紙への氏名や写真の掲載の可否については利用者や家族の意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自己決定を促しているも、利用者本人が自分の思いを言葉や行動に移すことがことが困難な方が多くいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを優先しながら支援をしています。希望に添えない場合もありますが、なるべく希望通りに支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的な散髪や整容を行い、希望される方には訪問散髪を依頼しています。衣類等、自己決定できる方へは声をかけて着衣していただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化により食事の準備から片付けは困難である。 行事食や月2回のお菓子作りなどで食事形態に配慮しながら楽しめるよう工夫しています。	栄養バランス、嗜好、季節感、形態、代替品等に配慮したメニューを法人の管理栄養士が作成しており、炊飯はホームで調理し副菜は隣接の住宅型有料老人ホームから届いている。季節の行事食（おせち、敬老会、誕生会他）にも取り組み、月2回手作りのお菓子づくり（蒸しパン、芋菓子他）など食事が利用者の何よりの楽しみであることを意識しながら取り組んでいるが、感染症予防のために外食やイベント時の家族との会食等は自粛している。重度化により調理の手伝いが出来る利用者は少なくなっている。利用者毎の食事や水分の摂取状況を把握し口腔ケアも支援している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や好き嫌いに対応しています。食事量や水分量を記録に残し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際、自歯がある方へは一度本人が磨いた後に職員が確認をさせていただいています。必要時は歯科往診依頼しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレ誘導にて排泄される方もいますが、夜間は睡眠を優先することから定時の排泄確認を行っています。	利用者毎の排泄パターンを把握し声掛けや誘導で可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に応じた介護用品やケアの方法をプランに反映させて改善に取り組んでおり、夜間は安眠を優先しておむつやリハビリパンツ、パット、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。便秘の予防に食事や水分の摂取量や運動等に留意し、主治医の指導も受けて対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘が続かないように内服薬や頓服等に対応しています。また、食べ物や飲み物でも便秘の改善を行うようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2～3回の入浴の支援を行っています。重度化し1人での介助が困難な利用者が増えているため必要時二人介助で支援を行っています。	基本週2～3回、個浴での入浴を複数介助も取り入れながら支援しているが、状況によってはシャワー浴で保清に努めている。好みのシャンプーや温度、時間、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応しゆっくり楽しめるように努めており、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、時間の変更や声かけ等を工夫し利用者自身の意向を汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡されている時などは、排泄介助の時間をずらしたりなどで対応しています。日中いつでも休息できるよう状況に応じて臥床の促しも行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の把握と薬情を職員室にて保管し共有できるようにしています。内服薬変更時には家族や訪問看護師への報告も怠らないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日には気分転換に外を散歩したり、食べたいものがあつた場合は購入したりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、外を散歩したりなどの外出を行っています。長時間の座位が困難な利用者が多く、車での外出が難しかったり、外出が億劫な方もいらっしゃる。	感染予防に努めながら利用者の意向に沿って日常的に園庭や周辺の散歩を行いながら草花を愛でおり、他科受診時には馴染みの街並み、景色を車窓から楽しんでいる。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの外出計画も十分には実施できない状況が続いているため室内での軽い体操や昔の流行歌や映像を楽しむなど、レクリエーションの工夫で気分転換を図っている。感染状況に配慮しながら徐々に外出の機会を増やしたい意向であるが重度化の為、全員での外出は難しく、利用者の状態に配慮しながら少人数での外出を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の制限はしていませんが、職員の判断で家族へ了承もらい預かり金にて管理しています。ほしい物必要なものは預り金の中から支払い等行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話連絡や手紙等は現在はなく、面会のみである。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室や共同スペースは常に清潔を心がけ、共同スペースには季節に合わせた壁画とうを飾っています。定期的な消毒と空調管理も徹底しています。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や人間関係に配慮してテーブルやテレビ等が設置されている。玄関には利用者の今年の目標が掲げられ、随所に活花や利用者の作品等も飾られている。対面キッチンからはリビング全体が見渡せて調理する職員との会話を楽しむ等、家庭的で和やかな雰囲気である。空調や換気、清掃、整理整頓に努め手指消毒薬等も設置されて快適に過ごせる環境になっており、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ視聴が好きな利用者には近くの座席にしたり、馴染みの利用者同士は同じテーブルで会話を楽しんだりされています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳とフローリングの2種類の居室があり利用者に合った居室を準備しております。馴染みの家具や私物の持ち込みも許可しています。	居室入口には戸惑うことの無いように名札が同意を得て掲げてあり、フローリングに腰高窓の仕様の室内にはエアコン、ベッド、洗面台、ナースコールが備えてある。利用者の意向を確認しながら清掃や整理整頓を支援しており、利用者は自宅で愛用していたテレビや寝具、また家族写真、ぬいぐるみ、小物等を持ち込み、自身の作品等も飾るなど、家庭同様に居心地良く過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全体に手すりを設置し、段差や障害物がないように配慮しています。利用者の居室には名前を掲示し分かりやすくしています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない